

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの教育実践」	6年 外国語（10月） We Can! 2 Unit 4 I like my town.
③言語活動の充実を目指した授業づくり	岐阜市立長良西小学校 渡邊 紘子

I 英語の学習で大切にしたいこと

英語の学習を通して目指したい姿は、以下の2つである。

- ① 英語で自分の考えや気持ちを何とかして伝えようとする姿
- ② 相手の思いを理解し、相手の話を受け止めながら聞く姿

自分の考えや気持ちを一方的に伝えるだけでなく、相手の考えや気持ちを理解しながら聞き、互いに分かり合える喜びを味わう子供たちを育てていきたいと考えている。そのために、目的や場面、状況等を明確にした単元を構想していくことが大切であると考えた。

II 子供たちにとって魅力ある単元構想の工夫

1 魅力あるUnitを貫く課題の設定

このUnitでは、自分たちの住んでいる岐阜市をさらに好きになってほしいと考えた。そこで、岐阜市に外国人観光客が少ないという現状を知り、外国人観光客を増やすために、岐阜市の魅力を生かしたよりよいものを考え、さらにより岐阜市にするために自分たちにできることを考えていくという単元を構想した。Unitを貫く課題を「岐阜市に外国人観光客を増やすぞ大作戦～魅力再発見・よりよい岐阜市へ～」とした。

2 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の在り方

言語活動を毎時間位置付け、自分の考えや気持ちを伝え合う経験を積み重ねていくことが大切だと考えている。そこで、言語活動のねらいを明確にして、毎時間の言語活動を仕組んでいる。

【事例-1】言語活動

時	本時の言語活動	評価規準
8	パフォーマンステスト	思考・判断・表現
7	後半：「外国人観光客を増やす作戦」を班で1つに決める活動（話し合い活動）	思考・判断・表現
	前半：自分の考えた作戦を伝え合う活動	
6	外国人観光客を増やすためにほしい施設等を、ポスターに書く活動	知識・技能
5	引いた岐阜市にほしい施設等のカードのよさを聞き、共感したり、自分の考えを伝えたりする活動	思考・判断・表現
4	引いた岐阜市にほしい施設等のカードのよさを考えて伝え合う活動	
3	引いた岐阜市にほしい施設等のカードに合った理由を考えて伝え合う活動	
2	引いたカードが岐阜市にあるかないかを伝え合う活動	
1	HRTとALTとの岐阜市の外国人観光客に関するやり取りを捉える活動	

3 互いの考えや気持ちを伝え合い、他者と協働して考える終末の活動

第7時の後半の活動では、Unitで学習してきたことだけでなく、これまでに学習してきたことを使って伝える、新たな目的や場面、状況等の提示をした。ここでは自分の作戦を伝えることに加え、班の仲間の作戦を聞き、班の中で考えを1つにしていくこととした。

【事例-2】グループで話し合う内容例 A児:司会(班長)

それぞれ考えてきた作戦を市役所の人に提案するために、班で1つに決めよう。
A: I want Nagara River aquarium.
B: I see. Why?
A: I like aquariums. We can see many sea animals.
B: Your idea is good. But I think I want a fishing moat.
A: That's nice. Nagara River is beautiful. How about you?
(C・D児も同様に提案する。)
A: Let's take a vote! Ngara River aquarium...
So Nagara River is the most. Is this OK?
B&C&D: OK!!
A: We want Nagara River aquarium.
B&C&D: Let's do so.



話し合い活動を取り入れたことで、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを聞こうという意識が高まってきた。そして、その上で自分たちの考えとしてまとめようとする姿につながったと考える。

本紙面右上に掲載されている単元計画を見て、ドキッとしました。バックワードデザインによる単元計画という文言をよく使いますが、なるほど、このように提示すれば、まさに「バックワードデザイン」だと思った次第です。さて、本コーナーでもこれまでからコミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定が大切であることを何度かお伝えしてきました。そして、その目的が「ほんもの」であればあるほど、子供たちが意欲的に言語活動に取り組むともお伝えしてきました。本実践は、まさにそうです。子供たちが暮らす地域の魅力を単に伝えるのではなく、そこには外国人観光客を増やすためという目的が設定されています。そして、各自が考えた魅力を班で紹介し合い、質問をしたり感想を言ったりしながら、班で提案する魅力の一つに絞り込んでいくという言語活動が仕込まれています。子供たちが意欲的に取り組んだ様子が目に浮かびます。
(文部科学省 視学官 直山 木綿子)